

消防用設備の **落とし穴** について - 西日本防災システム



警報設備の落とし穴

自動火災報知設備



自動火災報知設備

自動火災報知設備は火災の発生を知らせる役目を果たしますが、収容人員によってその警報音響はベルではなく、非常放送による**音声警報**となっている防火対象物が多数あります。

音声警報の対象物に**誤報**が発生した場合、陥り易い落とし穴 があります。

状況: 感知器発報により 非常放送起動 **女性の声** “ただ今～階の火災感知器が作動しました。係員が調べておりますので 次の放送に御注意ください”



ここで**冷静**に対応していただければいいのですが、**ついつい あわてて**火災報知器受信機の **復旧** ボタンを押してしまいます。

能美防災製 受信機



※ この場合、火災感知器が復旧できなければ **再度** “ただ今～階の・・・” と流れます。慌てていますので **この繰り返しを何回も!**

こんな経験は御座いませんか?? この繰り返しのために 誤報なのか、本当の火災なのかの確認もできないまま “ただ今～階の火災感知器が・・・” もう汗びっしょり!

もしこの誤報による全館鳴動の大騒ぎが夜間に発生しますと、とんでもない事態となります。

その結果!



誤報が発生したら大変なの? **非常放送連動停止** なんてことをしてしまいます。

実火災のとき 全く役立たず!



誤報が発生しても適切に機器を操作すれば、対応できます。 **POINT!** 特に色々な設備に連動がかかっている設備を担当されているかたは、しっかり勉強をしましょう!

TOA製 非常用放送設備

